

第3回朝霞市緑化推進会議の主な意見と対応方針

第3回朝霞市緑化推進会議（令和6年12月19日開催）の審議において意見をいただいた。意見とその対応方針を一覧として整理した。

- （1）市民アンケート調査の結果について（資料1）
- （2）現行計画の実績の整理（資料2）
- （3）グリーンインフラの多面的効用に係る分析評価（資料3-1、3-2）

	意 見	対応方針等
1	資料1 市民アンケート調査の結果について	評価の平均として、-1.0～1.0とあるが、基準となる値はあるのか。
2		→0が中間値で「どちらでもない」となる。
3		P2-6でアンケート結果の要約があるが、それぞれの記述の元となるページを教えてください。
4		→公開資料では、その設問に対応するかページ番号を表記する。
5		子育て世代の方の意見を重要視してほしい。
6		→子育て世代の評価を得るようにアンケートを設計した。意見を施策に反映していきたい。
7		P6、P28、P41の各ご意見ご要望、いずれも大変貴重であると思った。
8		→ご意見ご要望を踏まえ、今後の施策を検討したい。
9		P17 「全体を通してみると、5年未満、5年以上10年未満が全ての項目で高い値となっており、長い居住年数の20年以上30年未満、30年以上で低い値となっている」とあるが、何故か。
10		→長い居住年数の方は、現在よりもみどりが豊かであった時代を知るため、現状に対して評価が低くなる傾向があると推察している。
11		過去に同じようなアンケートは実施したことがあるか。比較対象がほしい。
12		→過去のみどりの基本計画の改定時にもアンケート調査を実施しているが、設問は時代とともに内容を更新している。
13		今後5年に1度など、同じようなアンケートを実施する予定はあるのか。
14		→次回改定時において、調査は行われるものと考えている。
15		他の市町村で同じようなアンケートが行われているか
16		→設問の内容に差異はあったと考えられるが、みどりに関わるアンケート調査を行っている自治体はある。
17		回答率は多い方なのか。
18		→他のアンケート調査と同じ程度である。
19		市民の方々が黒目川を愛していると改めて認識した。今後もイベントをお願いしたい。
20		→関係団体と協力してイベントの開催を継続していきたい。
21		アンケートは単純集計だが、クロス集計も考えているのか。
22		→属性とのクロス集計を行っている。
23		P41 河川敷の管理に対する意見があるが、どのような意味か。
24		→黒目川の土手や田島緑地などの草刈り頻度を検討してほしい旨の要望と理解している。
25		アンケートの回答者への要約のフィードバック
26		→結果はホームページで公表した

	ドバックや、お礼状の送付はあるか。	い。お礼状については無記名回答であることから難しい。
14	黒目川への期待が高いと感じた。他の自治体のようにクラウドファンディングなどで、舗装等の整備を進めると更に朝霞市の魅力が増えると思う。	→クラウドファンディングや民活など、今後検討していく必要があると考えている。
15	黒目川の両側の歩道、マンションの公園の整備に関しては、杉並区のSPECを活用してはどうか。カルシウムを土に混ぜて固めるものである。アスファルトではなく、温暖化対策になるという。	→舗装をどのようにするか、管理をどのようにするか、様々な意見を聞きながら、継続的に検討していきたい。
16	柳瀬川と黒目川の整備状況に大きな差がある。柳瀬川は、草刈りが行われ、綺麗である。生物多様性と舗装は両立する。市民の健康にも繋がるので、黒目川の草刈りや舗装をご検討いただきたい。	
17	川沿いの舗装については、人にも生物にも優しい、土もしくは土に代わるもので整備していただきたい。	
18	黒目川沿いでは、外来植物が蔓延っている。予算の問題もあるが、役所も一緒に外来植物の草刈りをお願いしたい。	
19	回答者達は、朝霞のみどりに関心があり、失われたものに対する思いもある。朝志ヶ丘の大きな森が失われたことを記載している人もいた。残っている民間の雑木林が今後開発される際には、周囲の自然について市と話し合いを持つなどをお願いしたい。	→開発の際に事業者側と協議を重ね、3000 平米以上は緑地を残すというルールはある。既存樹木を残すということも検討している。
20	宮戸の斜面林の畑が宅地になることが決まっている。畑に面する斜面林の木も伐採されるが市の調整なのか。	→危険木の伐採等もあり、朝霞市民会議の方とも話し合い対応している。緑地と周囲の方々との共存を考えている。
21	荒川河川敷のゴミ拾いのイベントは、まだ実施しているか。朝霞市で前は実施していた活動で、今は実施していない活動があれば教えてほしい。	→環境部門が主体となり、春夏秋と市が実施している。
22	公園の命名権等で企業にお金を出してもらうことは可能か。	→収益施設がないと難しい。他の市でも実施しているので、朝霞市においても可能か研究したい。
23	ボランティア活動の広報を市として強化してほしい。	→市としてもボランティア活動の広報は大事だと認識している。強化を検討したい。
24	ワークショップでは、朝霞の森や黒目川の何を残したいのか、そこまで十分議論して、合意形成をしてもらいたい。	→保全と活動に関しては合意形成が重要であると認識しており、ご意見として参考にしたい。
25	市民やボランティアと協力して、どこまで維持管理できるのか、合意形成して、手法を確立してほしい。	

26		ネイチャーポジティブや環境共生サイト等で、CO2 削減ではなく、生物多様性への企業の貢献が求められている。ネーミングライツではなく、時代に合った仕掛けを考えていくのも良いと思う。	→企業の参加も今後重要になると考えている。ご意見として参考にしたい。
27	資料 2 現行計画の実績の整理	P 1 景観作物種子配布という記載があるがどのようなものか。	→花の種の配布や泥の流失防止用植物の種等と認識している。
28		水辺環境保全の啓発における、荒川河川敷不法投棄物一斉撤去事業は、クリーンエイドの活動か。	→異なる事業である。
29		荒川河川敷不法投棄物一斉撤去事業は、市で公募して実施しているのか。	→荒川のクリーン協議会が主体となり実施しているものである。荒川上流河川事務所、朝霞市、和光市、志木市で協力し、いわゆるゴミ拾いを実施している。
30		みどりの目標達成状況の結果についての要因と今度の対応を知りたい。	→宅地開発により、畑地をはじめとするみどりの面積が減少している。目標設定に関して今後検討したい。
31	資料 3 グリーンインフラの多面的効用に係わる分析評価（経過報告）について	湧水パフォーマンスマップで、湧水があるとされている場所は、ゲリラ豪雨の時に危険な地域となると思うが、ハザードマップの重ね合わせは作成しないのか。	→湧水保全、水害対策それぞれ重要であり分析していきたい。（湧水保全は雨水の地下浸透を保全するもので水害対策として効果があるものと考えている）
32		今後、保存すべき樹林地や都市公園の再編や雨庭の設置等の検討を行うと聞いているが、工程を教えてください。	→次年度前半の時期に議論したいと考えている。
33		炭素固定量、総生産量における t/y という単位は、正式な単位なのか。	→よく用いるものであるが、公表用資料では理解しやすいように補足を入れたい。
34		それぞれのパフォーマンスマップが似ているが、分析の前にこのような結果と予測していたか。	→各々の評価軸で機械的に分析しているが、自然要素が多く分布するところで似た評価となることはある。
35		今までの朝霞市の航空写真等で、緑地面積を比較すれば、過去と現在の差を分析することも可能になるということか。	→様々なケースをシナリオとして設定し、評価することは可能である。
36		朝霞の森や黒目川、朝霞調整池などは、市民の評価が高い。この協議会で議論するのであれば、実際に足を運び、生の感覚を感じる必要がある。まずは、基地跡地の中に入れていただきたい。	→みどりの基本計画の策定を目的として、朝霞の森に入れるように交渉中である。
37		会議室での議論だけではなく、外に出て勉強会をすることがあっても良いと思うので検討をお願いしたい。	

第3回 朝霞市緑化推進会議 議事録 要点記録

日 時：令和6年12月19日（木） 14時00分～16時00分

場 所：朝霞市役所 別館5階 501会議室

出席者：古賀会長、堂本副会長、増田委員、鈴木（勝浩）委員、鈴木（香織）委員、大橋委員、森委員、藤井委員、山本委員、柴野委員、大貫委員、田島委員

欠席：本多委員、高橋委員、渡辺委員、増田委員、高堀委員

1 開 会

事務局 （開会の言葉、連絡事項）

- ・参加者は、16名中11名であり、朝霞市緑化推進施行規則第12条に定める開催定足数に満たしている。

2 挨 拶

古賀会長 （挨拶）

- ・寒さに負けない熱い議論をお願いします。次第に従い、会議を進行していく。

古賀会長

- ・この会議は原則公開の立場を取っているため、傍聴希望者がいる場合は、傍聴可能としている。事務局の方、傍聴者の確認をお願いします。

事務局

- ・本日の傍聴希望者はいない。

古賀会長

- ・途中で傍聴希望者が現れた場合は、委員の了承なく傍聴していただく。

古賀会長

- ・事務局より資料の確認を事務局よりお願いします。

事務局 （事務局より、資料の確認）

- ・事前配布の資料は7点ある。
 - ・本日の次第
 - ・資料1 市民アンケート調査の結果
 - ・資料2 現行計画の実績の整理
 - ・資料3-1 グリーンインフラの多面的効用に係る分析評価
 - ・資料3-2 グリーンインフラの多面的効用に係る分析評価（当日資料）
 - ・資料4 朝霞市みどりの基本計画策定支援業務 工程表
 - ・参考資料1 第2回朝霞市緑化推進会議の主な意見と対応方針
 - ・参考資料2 第1回生物多様性市民懇談会 議事録 要点整理
 - ・参考資料3 第2回生物多様性市民懇談会 要点記録（当日資料）
 - ・参考資料4 朝霞市みどりの基本計画策定に向けたワークショップ開催のおしらせ（当日資料）
 - ・その他、委員名簿、質問票、新聞記事（「私達の自然を守ろう」コンクール）、「新しい公園の使い方を一緒に考えよう！」
- ・資料の訂正をお願いします。
資料1 市民アンケート調査の結果 P40 問9から問10へ修正。

3 議 題

古賀会長

- ・次第に従い会議を進める。
- ・本日の議題は、(1) 市民アンケート調査の結果について、(2) 現行計画の実績の

整理 (3) グリーンインフラの多面的効用に係る分析評価（経過報告）についてである。

- ・いずれも今後議論をしていく上で重要であるので、活発な議論をお願いする。
- ・はじめに議題 1 市民アンケート調査の結果についてである。資料 1、参考資料 1 について事務局から説明をお願いする

事務局

(事務局より[資料 1 市民アンケート調査の結果]を説明)

- ・参考資料 1 を見ていただきたい。第 2 回朝霞市緑化推進会議の主な意見と対応方針を要約している。市民アンケートにこちらの意見を反映させ、実施している。
- ・資料 1 P1 アンケート調査の概要、目的については記載した通り実施した。
- ・1-2 の配布方法については、市内在住 13 歳以上の市民 3000 人に実施した。記載した通りである。
- ・1-3 の回収数は、合計 945 人、回答率は 31.5%。そのうち WEB は 22%であった。
- ・1-4 は設問項目を記載している。
- ・P2-6 アンケート調査の要約を記載している。内容は集計結果の所で説明する。
- ・P7 集計結果 3-1 属性では、50 代が 18.2%と最も多く、次いで 60 代 17.9%、40 代 15.6%となっている。職業は会社員・団体職員が 30.3%と最も多く、次いで無職 17.8%、専業主婦・専業主夫 14.5%となっている。
- ・P8 居住地域は南部地域が 38.2%と最も多く、次いで東部地域 20.8%、北部地域 19.8%となっている。
- ・本町 1 丁目が 47 人と最も多く、次いで本町 2 丁目 40 人、根岸台 7 丁目 32 人となっている。
- ・P9 問 1 朝霞市のみどりに対する満足度の結果は、評価の平均を見ると、「朝霞のみどりの豊かさや魅力に満足している」が 0.29 と最も高い値となっており、次いで「お住まいの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している」が 0.19 となっている。
- ・P10-22 までは回答者の属性をクロス集計したものとなっている。
- ・P10-13 が年代別、P14-16 が地域別、P17-19 が居住年数別、P20-22 が世帯構成別となっている。
- ・P23 問 2「市内のどんな場所で、みどり・自然が豊か、魅力的と感じますか」という設問の結果は、黒目川 331 人が最も多く、次いで青葉台公園、シンボルロード、朝霞の森、市役所周辺、中央公園となっている。市役所周辺一帯が魅力的という回答が多く見られたが、オリンピックに合わせてシンボルロードを整備したことに起因すると考えられる。
- ・P24 問 3「将来に渡って残しておきたいと思うみどりがありましたらご記入してください」という問については、朝霞の森が最も多い結果となった。地区公園や近隣公園、国有地なども残したいみどりとして挙げられている。
- ・P25 問 4「あなたはどれくらいの頻度で、市内の公園を利用していますか」という問については、年平均 30.9 回という結果であった。南部が一番多く、35.9 回、内間木が最も少なく、13.5 回であった。年代別では 30 代が 51.1 回と最も多く、10 代が 8.5 回と最も少ないという結果となっている。世帯構成別では、「18 歳未満の子どもがいて、一番上の子どもが小学校入学前」という世帯が 73.8 回と最も多く、単身世帯が 19 回と最も少ないという結果となった。
- ・全体を通してみると、「18 歳未満の子どもがいて、一番上の子どもが小学校入学前」という世帯が 73.8 回と最も多く、重要であるということがわかった。
- ・P26 の問 5「お住まいの近くの公園についておたずねします。」という問については、例として、ベンチなど休憩施設が充実しているは、シンボルロードが 0.75 と

最も高い評価であり、一方宮戸立出児童遊園地が-0.67 と最も低い評価となっている。

- ・P27 は、回答のあった公園についてのそれぞれの項目の集計結果を掲載している。
- ・P28～30 は、全体と地域別の比較ができるように集計結果を載せている。
- ・P31 問 6「みどり豊かなまちづくりを推進するために、必要だと思われる次の施策のうち、とくに重要だと思われるものを 3 つ以内で選ぶ」という設問では、「道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する」が 351 と最も多く、「だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を充実させる」が 292、「健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの遊歩道を充実させる」が 242 と次いで多い値となっている。
- ・P32 年代別、世帯構成別、地域別の集計の結果を載せている。
- ・P33 問 7 参加経験や取り組んでいる活動があるかという設問であるが、「生垣や花壇の自宅の庭の緑化」が最も多く、次いで「道路などの清掃活動」が多い結果となった。今後取り組みたい活動は、「市民農園や近所の空き地を借りた野菜や草花の生産」が 9.3%と最も多く、次いで「緑化のための募金活動」、「公園愛護会など公園の花植えや清掃活動への参加」「地域の団体で木や花を育てる」が多い結果となった。
- ・P34 は同じ設問に対して、同じ設問で年代別、世帯構成別、地域別の集計結果を載せている。
- ・P35 問 7-1 で「参加経験が全てなし」と答えた方への設問であり、その理由としては、「参加する時間がない」が最も多い結果となった。
- ・P36 問 8「市内の公園で行われているイベントやまつりに参加したり、足を運んだりしたことはありますか」という問については、「彩夏祭」が 64.8%と最も多く、次いで「黒目川花まつり」46.3%、「身近な公園で開催される納涼祭やイベント」27.3%、「あさか冬のあかりテラス」25.6%、「ASAKA STREET TERRACE」23.3%という結果となった。
- ・P37-38 は、同じ設問で、年代別、世帯構成別、地域別の集計結果となっている。年代別で特徴的なものは、夏祭や黒目川等は、全ての年代から参加していることであり、世帯構成別では、子育て世代で、「朝霞の森プレーパーク」、「じゃがいも堀り等の農業収穫体験」、「移動式プレーパーク」などの体験型イベントへの参加が全体に比べて多い傾向にある。
- ・P39 問 9 自然環境が有する多様な機能の認知度に関する問では、全体と年代別、世帯構成別、地域別で集計している。「CO2 の吸収源となり地球温暖化を緩和する機能」が 59.5%で最も多く、次いで「日射の緩和、蒸散作用により都市の気温の上昇を緩和する機能」47.8%、「生き物の生息空間となり身近な生き物や地域固有の生き物を守る機能」42.0%、「水害の軽減など自然災害による被害を軽減する機能」40.8%の順となっている。全体の認知度としては、年代別で、30 代が最も高い。
- ・P40 問 10 みどりを守るための仮定の支払い意思に関する問では、全体と年代別、世帯構成別、地域別で集計している。「CO2 の吸収源となり地球温暖化を緩和するみどり」に対する支払いが 158 円と最も高く、次いで「水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり」135 円、「日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり」125 円、「子どもの遊び場や散策の場となるみどり」121 円の順となっている。
- ・P41-45 アンケートの最後にみどりの街づくりの要望について記載してもらったものを整理している。色んな意見をいただいている。貴重な意見、ご要望をいただいたので、きちんと課題を整理し、みどりの基本計画の策定に活かしていきたいと考えている。
- ・何かご意見ご要望があれば、挙手にてお願いします。

田島委員

- ・市民アンケート調査の結果についての所感を述べる。大変よくまとまっている。
- ・評価の平均として、-1.0~1.0 とあるが、何点だったら良いという基準はあるのか。
- ・P2-6 でアンケート結果の要約があるが、それぞれの記述が何ページに書いてあるのか教えていただきたい。
- ・子育て世代の方のアンケートをできる限り重要視してほしい。
- ・P6 ご意見ご要望についてと、28 ページの地域別の一番下の部分、P41 みどりのまちづくりのご意見ご要望、いずれも大変貴重であると思った。
- ・P17 「全体を通してみると、5 年未満、5 年以上 10 年未満が全ての項目で高い値となっており、長い居住年数の 20 年以上 30 年未満、30 年以上で低い値となっている」とあるが、何故このような結果となっているのか教えてほしい。

事務局

- ・1 つ目については、基準はないが、中間の 0 がどちらでもないということであり、0 であれば、良くもなく悪くもないという感覚でとらえていただきたい。
- ・2 つ目については、どのページから要約を持って来ているのかを記載したいと思う。
- ・3 つ目については、子育て世代の意見は重要となってくると思っている。子育て世代だけでなく、若年層として 13 歳以上とさせていただいた。今後の課題の整理、施策の検討、将来の目標など、意識しながら皆さんと議論していきたい。
- ・4 つ目については、色々と貴重な意見をいただいているので、これからがみどりの基本計画の本題に入っていくので、参考にしたいと考えている。
- ・5 つ目については、居住年数が浅い方は、朝霞の良いところを見て引っ越してくる人が多いということも理由かと思う。都市部にありながら自然が残っているということで、人口が増えている。年数が少ない方がそのような意識が高いのではと思う。長く住んでいると、昔を知っている方が多いということもある。様々な開発により、朝志ヶ丘では雑木林がマンションになってしまった等、一つも思い出や思いが残るとみどりの評価に反映されてしまうのではないかと思います。長い間住んでいる方の方が、減ってきた様子を見てきたものがあるのではと思う。

古賀委員長

大橋委員

- ・他にご意見はあるか。
- ・今までに過去に同じようなアンケートは実施したことがあるか。
- ・今回これだけ見ていると比較対象がないので、何が良いのか悪いのかわからない。
- ・過去にないなら、今後も 5 年に 1 度など、やる予定はあるのか。
- ・他の場所で同じようなアンケートが行われているか。

事務局

- ・アンケートを作成する際に、前回と同じようなアンケートにしたいというご意見もあったが、グリーンインフラ等、国の施策も変わってきている中で、新しい設問に変えている。比較できるものについては、課題としてまとめたものを出したいと思う。近隣の行政においてもみどりの基本計画を策定する際には、同じようなアンケートをしていると思うので、似たような質問があるかどうか、比較できる材料を集めたいと思う。
- ・今後のアンケートの予定は今のところはないが、今後施策や実施計画を策定していくので、皆さんと議論していきたいと考えている。もし、実施する場合は比較検討できるものとしたいと思う。

大橋委員

事務局

- ・回答率は多い方なのか。
- ・回答率は、30%行けばよいと考えている。
- ・WEB 回答数が思ったより伸びなかった。高齢の方の回答率が高かった。
- ・期限後にも回答が来ているが、それは回答数に含めていない。
- ・おそらく新座市や和光市でもみどりの基本計画を策定する時にアンケートは実施していると思われる。情報を仕入れて、施策の検討をしていく中で皆さんと共有

できればと考えている。

鈴木（勝浩）委員

- ・市民の方々が黒目川を愛していると改めて認識した。イベントを含めて実施していただきたい。アンケートは単純集計だが、クロス集計も考えているのか。年齢層と居住者とのクロス集計で、どのような傾向を好んでいるのか等、今後集計する予定はあるか。
- ・P21 みどりの管理のところで、河川敷の管理を考えて欲しいという意味がわかれば教えていただきたい。

事務局

- ・クロス集計は実施している。クロス集計が必要なものは、実施している。今一度見直す必要はあると思っている。
- ・自由意見に関しては、そのものを載せているため、具体的なことはわからない。

田島委員

要望を話してもよろしいでしょうか。

1. アンケートの回答者へ要約をフィードバックするということや、お礼の文書をお願いしたい。
2. 黒目川に関して、黒目川への期待が高いと感じた。他の自治体のようにクラウドファンディングなどで、舗装、除草、外構設置、ベンチ、トイレ、花等の整備を進めると更に朝霞市の魅力が増えるのではないかと思う。
3. 黒目川の両側の歩道、マンションの公園の整備に関しては、杉並区のSPECを活用したらどうか。半世紀前にカルシウムを土に混ぜて固めるものである。アスファルトではないので、温暖化対策になるのではないかとされている。
4. 柳瀬川と黒目川の整備状況に大きな差がある。柳瀬川はとても綺麗なので見ていただきたい。

事務局

- ・アンケートの公表については、本日の内容を精査した後に、ホームページで公表したい。お礼については、アンケート実施者は誰だかわからないのでお礼はできない。
- ・朝霞市の予算が厳しい中で、民間の活力を活用すること、クラウドファンディングなどの検討は必要だと思う。
- ・SPECは舗装の会社か？黒目川のベンチやトイレは、議会でも毎回指摘を受けている。舗装については歩きやすい反面、生物多様性という面からどうなのかという考えもあるので、皆さんと議論していきたいと考えている。
- ・柳瀬川は、整備を行い、新たな公園も作っているが、個人的には黒目川の方が浅く身近な川という印象がある。流れが緩く、川が浅く、近づきやすい。ウォーキングには柳瀬川の方が歩きやすいとは思う。ご意見を参考に、みどりの基本計画に合うような計画を進めていきたいと思っている。

田島委員

- ・川の評価は個人で異なると思うが、黒目川沿いをランニングしていると草がすごいので、それと比較すると柳瀬川は草刈りをしっかり行っていると思われる。生物多様性と舗装は両立するのではないかと個人的には思っている。市民の健康にも繋がるので、知恵を絞りご検討いただきたい。

藤井委員

- ・川沿いの舗装についてであるが、砂利はガタガタしているので、走ったり歩いたりするのは難しいと思う。アスファルトではなく、土か土に代わるもので整備して頂ければ良いと思う。歩く人にも優しい舗装も考えられると思う。草に関しては、伸び続けている印象はある。黒目川で活動しているが、外来植物が蔓延っている。少し抜いても追いつかないくらい、一面覆われている。予算の問題もあると思うが、役所も一緒にやっていただきたい。

藤井委員

- ・アンケート結果は、良いアンケートだったと思う。回答した方たちは、朝霞のみどりに関心もあるし、失われたものに対する思いもあるということを感じた。朝志ヶ丘の大きな森がなくなったと今も書いている人がいる。ここから何年かかけて、計画を策定して行くと思うが、その間にも残った部分も開発が進んでいる。残った部分は民間の場所ではあるが、そのような場所が開発されている時に、周

囲の自然についても市として話し合いを持つなどをお願いしたい。

- ・宮戸の宅地開発されている所、宮戸の斜面林の畑が宅地になることが決まっている。斜面林の木も伐採されることも最近知った。宅地の土地ではないが、斜面林の木が切られるということは、市の調整なのか。

事務局

- ・開発については、開発の際に事業者側と協議を重ね、3000 平米以上は緑地を残すというルールはある。既存樹木を残すということも検討している。
- ・宮戸の斜面林の木が伐採されているという話だが、宅地の土地に枝がかかっているということで地主の方から依頼があったことが最初である。朝霞市民会議の方とも話し合い、緑地と周囲の方々との共存を考えている。宮戸の斜面林は、高木が多いということで、宅地となる土地と隣接している斜面林については高木の倒木の危険性も考え、宅地の際からバッファゾーンについては減らしていこうという話になった。家が建つ前に一度伐採して、今後どのように管理していくか検討することになっている。

大貫委員

- ・みどりの管理の所で、管理のグレードをあげてほしいという話があるが、かたやボランティアをしたいという話もある。国交省の河川の方もいらっしゃるが、例えば荒川は年に 1, 2 回ボランティアを募り、ゴミ拾いを実施していたが、今は実施していない。朝霞市で前は実施していた活動で、今は実施していない活動があれば教えてほしい。
- ・管理対象は、公園、道路、河川とあり、限られた予算の中で管理をしなくてはいけない。公園の命名権等で企業にお金を出してもらうことは可能か。

事務局

- ・市は、荒川のボランティアのゴミ拾いはまだ実施している。施策のまとめにも記載しているが、環境部門が主体となり、春夏秋と市が実施している。

藤井委員

- ・荒川クリーンエイドというボランティア活動も実施している。

事務局

- ・ネーミングライツも積極的にやろうという方針は出ている。まだネーミングライツの実績はない。魅力的な施設でないと応募が来ない。新たにつくる公園で収益施設が入るようなところであれば、企業が希望する可能性はあるが、やはり収益施設がないと難しい。実際他の市でも実施しているので、朝霞市においても研究しながらやってみたいと思う。

大貫委員

- ・限られた人が利用する場所は、企業から見て魅力ではないということか。

大貫委員

- ・荒川の活動を自分が認知していないということは、他の方も認知していない可能性があるので、ボランティア活動の広報を市として強化してほしい。

事務局

- ・昨日の生物多様性懇談会でも、環境保全に関する様々なボランティア団体が参加していたが、高齢化という課題が出ている。学生さんが参加していたが、やはり若い方が参加することで活性化すると感じた。市としてもボランティア活動の広報は大事だと認識しているので、強化しないといけないと思う。

大貫委員

- ・散歩の際にゴミ拾いを行っているため、本日も市からゴミ袋をもらってきた。そのような支援を市が行っているということも広報していただけると良い。

堂本委員

- ・朝霞の森や黒目川を残したい思いがあることはわかったが、今後ワークショップを実施する際には、テーマとして、朝霞の森や黒目川の何を残したいのか、そこまで十分議論して、合意形成をしてもらいたい。市民 150 人の考えは、一律ではないと思う。
- ・維持管理に関しては、当然残したいところ、整備したいところは今後増えていくが、予算は限られている。市民やボランティアと協力して、どこまで維持管理できるのか、どこまで対応できるのか合意形成して、手法を確立してほしい。都心に近いので、企業にも貢献していただきたい。ネイチャーポジティブや環境共生サイト等で、企業が CO2 削減ではなく、生物多様性にどう貢献できるのかということが問われているところである。企業の評価にも繋がり、企業にとっても大事である。ネーミングライツではなく、自然環境共生サイトの活動を支援する等、今の時代に合った仕掛けを考えていくのも良いと思う。

古賀委員長
一同
古賀委員長
事務局

- ・こちらで修正内容を委員長が確認して、アンケートを公表させていただく、ということによろしいか。
- ・同意。
- ・次に資料 2 について審議する。資料 2 の説明を事務局に願う。
(事務局より[資料 2 現行計画の実績の整理]を説明)
- ・朝霞市みどりの基本計画を平成 28 年 3 月に改訂した際、みどりの基本計画を実現するために、緑と水辺を守る、花や緑を育ててつなぐ、公園の魅力を高める、という 3 つのみどりの目標を設定した。みどりの基本計画の実行性を高めるために、具体的な方向性を定める「花とみどりのまちづくり構想」を策定している。この取り組み実績を、毎年、緑化推進委員会で報告し、意見をいただいている。現行のみどりの基本計画では、花とみどりのまちづくり構想の第 4 期を 28 年度～30 年度、第 5 期を令和元年度～令和 3 年度、第 6 期を令和 4 年度～7 年度と合計 10 年間取り組んできている。
- ・重点的な取り組みは、【1】自然との共生に向けた理解の醸成については、落ち葉の利活用の検討を行い、自然と触れ合う機会を増やすことを目的とし、公園の落ち葉を持ち帰ったり、朝霞の森のお祭りで落ち葉プールを作ったりした。落ち葉で遊ぼうということで子ども達に大人気であった。
- ・二つ目が、生物多様性等に関する市民意識の醸成であるが、生物多様性市民懇談会での意見交換を実施している。毎年開催する中で、お互いの困りごとを情報交換する場になり、高齢化して困っているということ等を共有できる。また、活動内容を共有することでも新たな意識が生まれて一緒に活動することに繋がり、実施してよかったと思っている。
- ・【2】水辺環境保全の啓発においては、主に川のクリーン活動を実施している他、あさか環境かるたの作成は、子ども達に環境について意識してもらうために実施した。
- ・【3】緑被率調査等の実施・分析を踏まえたみどりの基本計画の改訂については、5 年に 1 回緑被調査を行っている。これを基に緑の状況を把握している。
- ・次に【5】休耕期間の緑肥対策事業、【5】農業体験の実施は、農地が減っていく中で農家を支援するために取り組んでいる。
- ・2 ページ目は、(2) 花や緑を育ててつなぐに関わる内容を取りまとめている。【4】朝霞市みどりのまちづくり基金による緑化等の支援では、景観形成補助金制度の開始とともに、様々な景観に関する団体の支援をしている。また、寄付型自動販売機を設置し、自動販売機で購入するだけで、まちづくり基金に貢献できるものになっている。
- ・【7】街路樹管理計画の策定等による公共空間における花や緑の適正管理においては、例えば城山通りのイチヨウ並木は綺麗だが、剪定方法について実際に樹幹について等、街路樹育成方針を検討した。
- ・【9】学校の壁面・屋上緑化及び校庭芝生化の維持管理事業では、今市内の小中学校では、屋上緑化や壁面緑化を実施している。子ども達が自然と触れ合う場をより多く提供しようということで、維持管理を続けている。
- ・3 ページ目は、(3)公園の魅力を高めるにかかわる内容を取りまとめている。
- ・【8】基地跡地公園の整備・シンボルロードの管理では、令和 2 年 2 月 22 日にシンボルロード開通した。非常に多くの人々が利用し、イベントも増えている。シンボルロードを活用し、市内の賑わいを高め、またみどりも多いので、みどりと触れ合ってもらいたいと考えている
- ・【10】まぼりみなみ公園・まぼりひがし公園・(仮称)宮戸二丁目公園の利用ルールづくり及び施設整備に関しては、まぼりみなみ、まぼりひがしが、根岸台 5 丁目の区画整理地内にできた公園であり、(仮称)宮戸二丁目公園は、宮戸のテニスク

ラブの跡地に作っている。今年度ワークショップを開き、どのように運営していくかを検討していく予定である。

- ・【11】みどり空間の魅力向上施設の検討では、まちなかベンチの設置に取り組み、駅や河川沿いに設置している。健康器具の設置も行い、公園で運動する機会を創出している。
- ・【12】公園施設長寿命化計画に基づく施設の補修・更新及び計画の改訂では、市内の遊具に対してどのように対応していくか長寿命化計画を定め、計画的に更新を行っている。
- ・目標達成状況の整理について説明する。現在の目標面積と達成度であるが、都市公園は達成していないが、公共施設は達成している。朝霞市は児童遊園地、あさかの森、目黒川等、都市公園以外にもレクリエーション施設があるため、都市公園とレクリエーション施設と合わせた空間で、評価を行うことを検討している。
- ・現行計画におけるみどりの目標面積と現況値については、市街化地域、都市計画区域ともに目標に達成していない。朝霞市のみどりは減少傾向にあるため、現行計画の目標達成は困難であると考えている。
- ・これらを踏まえ、またアンケート結果も踏まえながら、計画を検討していく。
- ・ご意見があれば挙手にてお願いします。
- ・P 1 景観作物種子配布という記載があるがどのようなものか。
- ・産業振興課の方で対応しているが、毎年種類は変わるが、農作物ではなく、花等の種の配布や泥の流失防止用の緑の種等と認識している。
- ・水辺環境保全の啓発における、荒川河川敷不法投棄物一斉撤去事業は、クリーンエイドの活動か。
- ・違う活動だと思う。
- ・荒川河川敷不法投棄物一斉撤去事業というのは、市で公募して実施しているのか。
- ・荒川のクリーン協議会が主体となり実施しているものである。荒川上流河川事務所、朝霞市、和光市、志木市で協力し、いわゆるゴミ拾いを実施している。環境推進課の時に何度か参加した。河川敷で活動しているサッカーチームや野球チーム等と一緒に、清掃していただく活動になっている。
- ・みどりの目標達成状況の結果について、なぜこのような結果となっているのか。またこれを踏まえて、今度どのように考えているか。
- ・分析は今後になるが、みどりの面積については、宅地開発が多く、畑の面積が減少していることから、みどりの面積も減少している結果となっていると思われる。公園については、今後分析をしたい。
- ・朝志ヶ丘など公園が少ない地域は把握している。公園以外のレクリエーション施設も検討している。宮戸地域は新たに公園を整備する予定である。しかし、まとまった敷地を確保することが難しいということ、財政的に難しいということで、すぐに公園の面積を目標に近づけることは難しい。緑地についても、相続等の問題もあり、単に増やすということは現実的ではないと考えているので、みどりの目標について、どのように対応していくかは大事な議論となると思う。
- ・他に意見がなければ、議題 2 については、本日の議論を踏まえ、必要に応じて、修正を事務局にお願いします。
- ・議題 3 グリーンインフラの多面的効用に係わる分析評価（経過報告）について説明をお願いします。
- ・資料 3-1 と 3-2 を説明する。本日は分析を進めている中で、経過報告として説明する。
- ・目的は、緑地保全、土地緑化政策の検討における根拠を得るために、市民生活に関わるみどりの多面的効用について解析をすることとしている。

古賀委員長

田島委員

事務局

藤井委員

堂本副委員長

藤井委員

事務局

大貫委員

事務局

事務局

古賀委員長

古賀委員長

事務局

- ・みどりの働きについては、水害、CO₂の吸収、生き物の生息空間、美観、子どもの遊び場など、多様な働きがある。
- ・今回のグリーンインフラの解析では、多様な機能ごとに分析を進めることとしている。
- ・みどりの分析評価の構成を示した概念図になる。朝霞市の緑被地データや空中写真などのデジタルマップや自然環境調査のデータ等を地図に集約する。それがグリーンインフラマップである。
- ・湧水涵養域、都市の気温上昇の緩和、地域生態系の保全など様々な項目で分析を進めている。
- ・本日は、湧水涵養域の予測、ヒートアイランド現象の緩和、炭素固定、大気浄化、市域生態系の保全について説明する。
- ・朝霞市グリーンインフラマップは、市域全域が網羅されたものである。
- ・1つ目の湧水涵養パフォーマンスについて説明する。目的は、地下水の動きをシミュレーションし、湧水や河床から湧き出る地下水がどこに浸透域に由来するのかを明らかにし、湧水の保全について重要な場所を抽出することである。
- ・また、モデル構築は、大気や地形、陸面、地下地質構造、水利用等をモデル化し、3次元格子モデルを構築して分析をしている。
- ・地下水シミュレーションは、協力会社である（株）地圏環境テクノロジーのGETFLOWS（ゲットフローズ）を使用して解析している。
- ・モデル化の方針は、ローム層を浸透して、砂礫層にぶつかって低い方に流れ出るものが、湧水となる。一方で、関東の南西は長年の揚水により深部の地下水は著しく低下しており、下位の地層に向かって浸透していくものがある。それぞれの割合で流れていくのかをモデル化している。
- ・解析領域については、黄色い線が朝霞市であり、赤い線が、荒川、柳瀬川、白子川である。
- ・地下水の分析は区切りの良い所で実施した。尾根部や河川を領域として設定している。深さはマイナス100mまで格子を組んでいる。
- ・モデルの算出方法は、細かなルールがあり、本来は説明すべきであるが、大量の説明が必要となるので、今回は割愛させていただく。
- ・浸透量を示したものの、湧水の解析結果を提示している。
- ・台地のへりのところに黄色や赤の点々が算出されるが、これは実際の湧水の場合と重なっている。一方、沖積面の点々は、モデル上の地下水位が高く提示されている可能性もあり、現在調整しているところである。今回のものは暫定版である。
- ・次は地下水位の分析結果である。2mから4mのところが多いが、市街地や駅前は10mの地下水位になっている。表土層の直下に点を打ち、50メートルごとの点がどの方向に流れていくかをモデル化している。
- ・広沢の池付近では、谷に向かって流動する結果がモデル上確認された。
- ・北朝霞駅の周辺をモデル化したものである。白っぽいところは、都市的土地利用が優占する場所で、地下水位が深くなっている。雨水が浸透しないので、地下水位が深くなってしまう。その意味で地下水のくぼ地となり、地下水が集まってくる結果がモデル上確認された。
- ・次に湧水の水がどこからきているのかの解析を3か所の湧水で実施した。暫定であるが、代官水、東圓寺・不動の滝周辺、子の神氷川神社である。どこから来ているのかというスケール感をみていただければと思う。
- ・代官水周辺の解析結果のモデルにおける湧水は、モデル上の湧水である。実際は湧水が存在していないが、モデル上は湧水が存在してもよいという結果となっているということである。300m離れた台地上のところから、地下水が集まってい

るだろうとモデル上算出されている。代官水の湧水を守るための浸透域の範囲がわかる結果となっている。

- ・東圓寺の湧水の起源域は、200メートル範囲くらいのコンパクトな範囲が確認される。
- ・子の神氷川神社は、自衛隊の敷地まで広い範囲で浸透域が算出された。
- ・あくまで、これらはモデル上の話であるため、現実ではないということは頭に置いておかないといけないが。どの領域を守る必要があるのかを考える上で参考となると考えている。
- ・次にヒートアイランド現象の緩和パフォーマンスについて説明する。熱を測る波長で撮影することができる人工衛星ランドサット9号を活用して、ヒートアイランド現象の分析を行っている。地表の温度を推測することができる。夏の雲がないという条件で、2023年2024年の夏の3日間のデータを用いた。荒川河川敷、調整池、新河岸川沿い基地跡地等で涼やかな領域が確認できる。一方、市街地はヒートアイランド現象が確認できる。黒目川沿い等、小規模であるが、黄色い部分が確認でき、都市を冷やす役割を果たすことができる場所であるとモデル上考えられる。
- ・ランドサットの地表面温度図とグリーンインフラマップを用いて、グリーンインフラマップの緑地の面積と地表面温度の回帰式を求めた。この回帰式を用いるとグリーンインフラマップからモデルを作成することが可能となる。草地や水面の面積に係数をかけると地表面温度がわかるということである。ランドサットによる地表温度と回帰式から求めた表面温度を比較し検証している。
- ・例えば樹林地が駐車場になると、その周辺がどのくらい温度が上がるのかを回帰式から算出することができるようになる。回帰式から、ヒートアイランド現象の緩和の視点による評価軸（0～1まで）を作成し、マップを作成している。
- ・また、他の評価と合わせ、総合評価を今後行う予定である。
- ・次に炭素固定パフォーマンスについて説明する。植物は二酸化炭素を吸収し、炭素を固定していく。光合成で生産された炭素は総生産量というが、呼吸で出ていく二酸化炭素の部分の引いた部分を、純総生産量で計算している。
- ・樹木一本一本の数を調べて実施する算出方法もあるが、今回は緑地の面積から算出する簡易的な方法を用いている。常緑広葉樹林、落葉広葉樹林等の面積がわかれば炭素固定量がわかるので、簡易に算出することができる。
- ・先ほど同じように、炭素固定量の算出と共に、評価のマップも作成している。
- ・次に大気浄化パフォーマンスについて説明する。二酸化窒素、二酸化硫黄は、一度植物の中に吸収されると出て行かないので、植物が吸収した量、純生産量で算出している。
- ・次に地域生態系の評価、保全パフォーマンスについて説明する。
- ・生き物がある場所に棲むためには、エサがあり、巣作りや産卵などができる環境が必要である。生き物に必要な環境や生活の仕方によって動植物をある程度グループ化し、それぞれのグループごとの利用状況を抽出する。生き物の視点による環境の多様性を評価した。
- ・データは、朝霞市で過去に行われた生き物調査で作成された生き物リストとGI（グリーンインフラ）マップを用いた。
- ・過去に調査で確認された生き物について、各々の生物の生活史において利用すると考えられる環境（GIタイプ）を設定した。
- ・合わせて、過去に調査された生き物を、レッドリスト、注目種、同じような生態をもっている等によって設定された指標に分類している。
- ・これを基に指標の多様度を求めている。
- ・まず、想定生態環境を設定するという作業を行った。どのような環境にいる可能

性があるか。当てはまるところにチェックを入れていく。現在、生物多様性懇談会の委員の方々に内容の確認をお願いしている。

- ・指標については、補足資料 2 の所で、一覧を配っている。
- ・34 の指標に対して、過去に朝霞市で確認された生物について分類している。
- ・次に生物が多様な場所として、林縁や湧水が考えられる。これらの周辺は、生物多様性があるということで、マップ上で抽出した。
- ・朝霞市の湧水調査で確認された場所も表示している。
- ・それぞれのグリーンインフラマップの項目ごとに指標の数も数えることができるので多様度を算出できる。
- ・朝霞調整池の湿地環境、基地跡地、根岸台や宮戸の斜面林、農地などで評価が高いという結果が出ている。
- ・次に景観資源パフォーマンスについて説明する。本市の自然的景観は、広く荒川河川敷や黒目川、身近な農地や植栽地など様々ある。これらは、市民生活で様々な形で関わり、寄り添って生活している。まちのイメージ形成や地元意識の醸成に大切な役割を担っている。市民が豊かである、魅力的である、と感じるみどりを、市民アンケート調査より抽出し、分析を行った。
- ・一部重複があり、重複するものはダブルカウントし、調整したものが提示したマップである。
- ・黒目川は断トツで一位あるが、基地跡地や河川敷、農地、社寺仏閣などを抽出し、作成した。また、他の評価軸と同じように、パフォーマンスマップを策定した。
- ・農業活動空間パフォーマンスについて説明する。
- ・農地の減少が多く見られ、特に畑の減少が顕著である。その理由としては、住宅地への転用が急速に進んでいる他、農業従事者の高齢化が影響していると考えられる。
- ・こちらの経営耕地面積の水位というグラフは、農業政策のグラフであるが、やはり農地が減少していることがわかる。
- ・産業実態に係るアンケート調査を朝霞市では実施しており、営農においてどのような課題があるかを調査している。
- ・パフォーマンスの分析では、耕作地がどこに存在しているかをシンプルに評価することとした。耕作農地の抽出、休耕農地の抽出を目視で行い、マップを作成した。
- ・残された分析項目についても分析を行ってから、総合評価を行う予定である。それについては次回説明をする。本日は途中経過として報告した。
- ・途中経過という話であるが、現時点で聞きたいことがあればお願いします。
- ・湧水のところで、都市計画で考えると、湧水が出るところは、ゲリラ豪雨の時に危険な地域となると思うが、ハザードマップの重ね合わせは作成しないのか。
- ・防災についても分析する予定であるが、最初はひとつひとつシンプルに分析を行いたい。施策の段階で湧水のデータは大事であり、治水、都市型水害との関わりについてどう考えるか、は優先順位なども考え、来年以降に皆さんと議論していきたいと考えている
- ・グリーンインフラマップということで説明いただいたが、現状分析の部分で、第 2 回会議の参考資料において、保存すべき樹林地や都市公園の再編や雨庭をどこに設置するかということが最終的に考えている記載されていた。工程的にはどのようなになっているか。
- ・当初の予定より遅れている。具体的な施策の議論は、次年度の前半で検討することを予定している。本日は具体的な内容に踏み込んでいないが、回を進める中で議論していきたい。

古賀委員長

大橋委員

事務局

田島委員

事務局

- 田島委員
- ・炭素固定量、総生産量は、どう調べてもこの単位は出てこないが、この単位は年間の本数だと思うが、これは正式な単位なのか。
- 事務局
- ・単位については、tはトン、yは1年あたりということである。通常、このような書き方はするが、見慣れない単位である。誤解がないように、資料で使用する際には、最初に意味を記載する等、わかりやすくなるよう対応したい。
- 古賀委員長
- ・それぞれのマップが似てきていると思うが、分析の前にそのような結果となるという予測はあったのか。
- 事務局
- ・先入観をもたず、各々の評価軸で機械的に分析しているが、やはり自然要素が多く分布するところで同じような評価となってしまうことはある。
- 古賀委員長
- ・今までの朝霞市の航空写真等で、緑地面積を比較すれば、過去と現在の差を分析することも可能になるということか。
 - ・山がなくなったらこうなるから、今ここを守ろうという話もできるということか。
- 事務局
- ・シナリオ評価という言葉あるが、森が残されたらこうなる、森がなくなればこうなるというシミュレーションは可能である。
- 堂本副委員長
- ・朝霞の森や黒目川などは、市民の評価が高くなっていると思うが、ここのメンバーはほとんど朝霞の森に入ったことがないと思う。この協議会で議論をするのであれば、早々に実際に朝霞の森の中に入って、実感としてどうなのか生の感覚を感じる必要がある。黒目川は行っている人も多いが、行ったことがない人は行ってみる、朝霞調整池は価値が高いが、市民の評価はあまり高くないので、まずは行ってみるというように、会議室で議論をするだけでなく、実際に体験もしてもらいたい。まずは、基地跡地の中に入れていただきたい。
- 事務局
- ・計画策定のため、ということで朝霞の森に入らせていただけるよう交渉はしている。朝霞の森の中に入りたいという話もあると思うが、今後議論する前に、実際に現地に入るという勉強会も調整していきたいと思う。これから課題の整理や目標とか大事な議論になっていくので、現地で率直な意見を出していただきたい。
- 古賀委員長
- ・引き続き、解析を進めていただければと思う。
 - ・資料4について説明をお願いします。
- 事務局
- ・一番下の欄に、緑化推進会議と記載されている。本日3回目である。市民アンケートの結果と現行計画の実績の説明を行った。来年2月くらいに課題等の本格的な計画の中枢部について議論させていただきたいと考えている。来年度中に計画をまとめて市民のパブコメ等を開催した後に、計画を策定していく。勉強会も行いながら、進めていきたい。
 - ・参考井資料の2,3については、生物多様性懇談会を昨日行っているなので、その議事録をお配りしている。参考に見ていただければと思う。
- 古賀委員長
- ・ご不明点や質問があればお願いします。
- 古賀委員長
- ・質問等ないようなので、最後に全体について何かあれば挙手にてお願いします。
- 堂本副委員長
- ・配っていただいた朝日新聞のコピーは、毎年コンクールを行っており、賞をいただいたのが、朝霞市の小学生なので紹介させていただいた。学校にビオトープを作りたいという子である。
- 藤井委員
- ・今の小学生が絵を描いているというような話のように、子ども時から自然に触れあっているということは大事だと思う。田島緑地は知らない人も多い。勉強会などの形で広く知ってもらい関心を持っていただきたい。実際に見れば、守りたいと思うのではないかな。ぜひ広めてほしい。
- 古賀委員長
- ・会議室での議論だけではなく、外に出て勉強会をすることがあっても良いと思うので検討をお願いしたい。
 - ・審議は以上となる。次に次第3および連絡事項についてお願いします。

その他 連絡事項について

事務局

- ・ワークショップの開催について説明をする。新しい公園の使い方を一緒に考えよう、というワークショップである。公園整備をしている（仮称）宮戸二丁目公園、まぼりひがし公園、まぼりみなみ公園は次年度以降整備予定である。どのような公園が良いかワークショップを開催して、設計に反映してきた。ボールあそびエリアも設置予定であり、使い方について、1月18日（土）と2月8日（土）にワークショップを開催予定である。興味がある方、お近くの方にぜひお声をかけをお願いしたい。
- ・もう一つ、シンボルロードの維持管理を考えるワークショップも開催予定である。1月26日（日）に開催予定となっている。市役所に集合して実際にシンボルロードを歩く予定である。みどりの基本計画を策定する際の第1回目のワークショップという位置づけでもある。参加の方、よろしくお願いする。
- ・質問票をお配りしたので、何かありましたら、提出日までにお送りいただきたい。
- ・本日の議題議事は終了した。

古賀委員長

5 閉 会

事務局

- ・以上を持って、令和6年度第3回朝霞市緑化推進会議を閉会する。

（閉会）